巻頭言：日本質量分析学会和文誌への投稿のお願い

Preface: Submission Request to *Journal of the Mass Spectrometry Society of Japan*

新聞秀一^{1,2}

Shuichi SHIMMA

¹日本質量分析学会和文誌編集委員長

²大阪大学大学院工学研究科

日本質量分析学会会員の皆様へ

日頃より、一般社団法人日本質量分析学会の活動にご協力賜り、誠にありがとうございます。Journal of the Mass Spectrometry Society of Japan（以下、JMSSJ）は、日本質量分析学会の和文誌としての役割を担っており、現在年6回発行をしています。しかしながら、近年投稿される原稿数は減少傾向にあります。

本年4月には編集委員会の体制を一新し、JMSSJの今後の方針について何度か議論を重ねてまいりました。その一つの案が、本号に掲載されております「第68回日本質量分析学会総合討論会特集コーナー」となります。

会員の皆様もご存知の通り、第68回日本質量分析学会総合討論会は「みなし開催」となりました。各セッションでの発表準備を進めてくださった学生、研究者および学会員が一堂に会して、研究成果発表ならびに活発な議論ができなかったことは大変残念であります。

この総合討論会特集コーナーでは、「本来発表されるはずであった研究内容を紹介する」、「簡単に読める短い記事を簡便に発表する」を基本的なコンセプトとし、原稿の文章量に制限を設けず、体裁もある程度の自由度を持たせました。本号では、会員の皆様に対し、このコーナーがどのような形式であるかを知っていただく機会としました。

本年度COVID-19がもたらした誰も経験したことのない社会変革は、オンラインによる学会発表やオンラインとオフラインのハイブリッド開催など、今後さまざまな発表の形式を生み出す契機となるはずです。その発表形式の一つとして、会員の皆様の研究紹介を是非JMSSJ上で行っていただければと考えております。

また、本号には総合討論会特集以外にも、私自身がノートとして原稿を投稿しております。このような質量分析に関する「実験プロトコル」を公開することや、研究室で埋もれている「ネガティブデータ」ではあるが有益な情報を含むデータについても、積極的にJMSSJ誌を用いて公開し共有していただきたいと願っております。JMSSJは1953年に創刊した世界で最も古い質量分析学会誌となります。この長い歴史を絶やすことなく、会員の皆様の情報交換メディアとして、今後も積極的に活用いただき盛り上げていただきますよう、会員の皆様のご協力を賜りたく、巻頭言とさせていただきます。何卒、皆様からの投稿をお願いいたします。